

学内発掘の歩み



はじめに

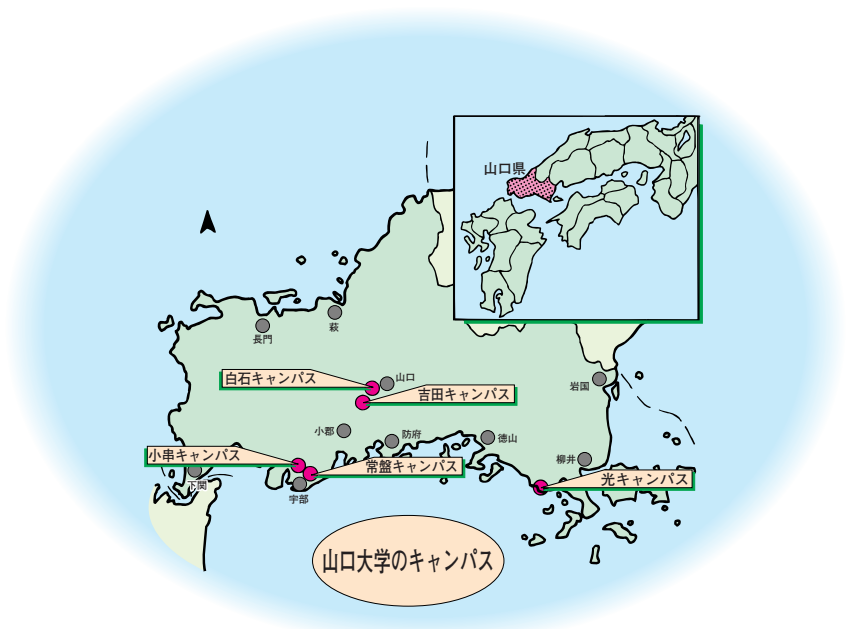
今年、当館が創設されてから20年目にあたります。山口大学ではここ吉田の地への統合移転を契機として、1967年（昭和42）から吉田遺跡調査団による発掘調査が開始されました。そして、1973年（昭和48）には移転事業の完了により、およそ8年間にわたった発掘調査もひとまずの終了をみたのでした。この間の発掘調査では、多量の遺物がみつかりましたが、これを収蔵することを目的として当館の設置が計画されました。

1978年（昭和53）に当館は設置されました。山口大学キャンパス遺跡、すなわち吉田遺跡の発掘調査でみつかった遺物の収蔵と展示、加えて大学キャンパスの埋蔵文化財の考古学的な調査研究、埋蔵文化財に関わる様々な学問分野の学术交流の場の提供という3つを設置の主な目的としていました。

当館設置以来の業務の中心はキャンパス遺跡の調査研究です。山口大学には、吉田、小串、常盤、白石、光の5つのキャンパスがあります。当館によるこれまでの調査の結果、吉田遺跡以外にも、そのすべてのキャンパスに遺跡が埋もれていることが確認されました。当館は、20年間にわたって、これらの遺跡の発掘調査と研究を根気強く続けてきているのです。その結果、それぞれのキャンパスの遺跡の内容も、次第に明らかになってきました。そこでこのたび、当館が設置以来行ってきた発掘調査の概要を中心とした冊子を作成しました。20年間の発掘調査と遺跡研究による成果の一端をご理解いただければ幸いです。

目次

はじめに	1
吉田遺跡	
位置と環境	7
調査開始の経緯	10
吉田遺跡調査団の調査成果	10
埋蔵文化財資料館の設置と調査成果	11
吉田遺跡の変遷	
旧石器時代	12
縄文時代	12
弥生時代	13
古墳時代	18
古代	20
中世	21
近世	22
遺跡保存地区	23
白石遺跡	26
月待山・御手洗遺跡	28
山口大学医学部構内遺跡	29
山口大学工学部構内遺跡	30
現状と課題	31



吉田キャンパス
(人文・教育・経済・理・農学部・教育学部附属養護学校)



小串キャンパス
(医学部・医学部附属病院)



常盤キャンパス
(工学部)



白石キャンパス
(教育学部附属山口幼稚園・小学校)



白石キャンパス
(教育学部附属山口中学校)



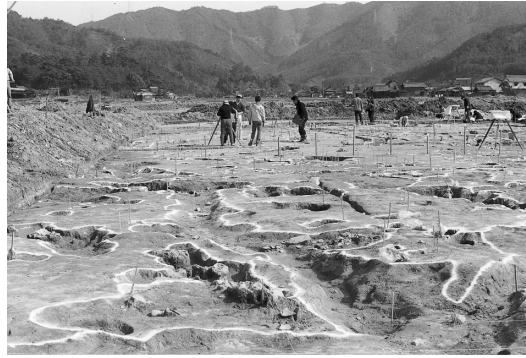
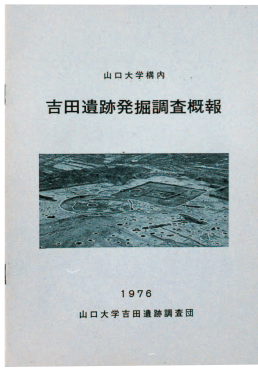
光キャンパス
(教育学部附属光小・中学校)

山口大学キャンパスの主な発掘調査

キャンパス名	調査地点	調査の主な成果
吉田	第1学生食堂南側 (遺跡保存公園)	弥生～古墳時代の21棟の竪穴住居。古墳～奈良時代の河川。 弥生～奈良時代の土器・石器。
	サッカー場	縄文時代の河川。縄文～奈良時代の土器・石器。
	大学会館前庭部 (遺跡保存地区)	弥生時代の貯蔵穴・竪穴住居。 縄文～江戸時代の土器・石器。
	第2学生食堂	古墳時代の6棟の竪穴住居。弥生～室町時代の土器・石器。
	大学会館	古墳・平安・江戸時代の井戸。縄文～奈良時代の土器・石器・ 木製品。
	本部2号館	室町時代の建物跡。縄文～江戸時代の土器・石器。
	養護学校	弥生時代の溝。縄文～弥生時代の土器・石器。
	図書館	縄文～江戸時代の土器・石器。古墳時代の水田。
	メディア基盤センター	縄文時代の落とし穴・河川。弥生～古墳時代の竪穴住居。 古墳時代の河川。江戸時代の井戸等。 縄文～江戸時代の土器・石器。
	教育実践研究指導 センター	旧石器～縄文時代の石器。江戸時代の溝。
	農学部連合獣医 学 科 棟	縄文時代の河川。旧石器時代のナイフ形石器。 縄文時代の土器・石器。
	グランド野外 照 明 施 設	縄文・古墳時代の河川。弥生時代の竪穴住居。縄文～古墳時代 の土器・石器。弥生時代の37個のガラス小玉。
	第2屋内運動場	古墳～江戸時代の用水溝。弥生～江戸時代の土器・石器。
	陸上競技場 公共下水道布設地	弥生時代前期の遺構。縄文～弥生時代の土器・石器・骨角器。
小串	医 学 部	旧石器時代のナイフ形石器等の石器。弥生時代終末～古墳時代 前期の土器。室町～江戸時代の土器
常盤	国 際 交 流 会 館	旧石器時代のナイフ形石器などの石器。
白石	小 学 校	古墳時代の竪穴住居跡・溝。弥生～古墳時代の土器・石器・木 製品。
	中 学 校	縄文～弥生時代の土器・石器。室町時代の土器。
光	体 育 館 等	縄文～江戸時代の土器・石器。

キャンパス遺跡調査の歩み

年（元号）	埋蔵文化財資料館の沿革と主な発掘調査
1966年 （昭和41年）	山口大学、山口市吉田の地へ統合移転を開始。造成中、吉田遺跡発見。 教育学部教授小野忠熈氏により予備的な調査が開始される。
1967年 （昭和42年）	山口大学吉田遺跡調査団設立（団長学長力武一郎、調査担当小野忠熈）。 吉田遺跡の本格的な発掘調査が開始される。
1973年 （昭和48年）	統合移転が完了し、吉田遺跡調査団の発掘調査終了。遺物の収蔵用倉庫の設置 を文部省に申請、許可される。
1976年 （昭和51年）	遺跡保存地区が史跡公園として暫定的に整備される。
1977年 （昭和52年）	吉田遺跡出土を中心とする考古遺物の収蔵庫として、埋蔵文化財資料館竣工。
1978年 （昭和53年）	構内遺跡調査要項（埋蔵文化財資料館規則、同館運営委員会規則）制定。 以後、学内の埋蔵文化財の調査・研究業務は当館に移行。
1979年 （昭和54年）	助手1名配置、吉田キャンパス内の調査・研究開始。 吉田キャンパス本部2号館新営に伴う発掘調査。 吉田キャンパス教育学部附属養護学校新営に伴う発掘調査。
1982年 （昭和57年）	事務補佐員1名新たに配置。 吉田キャンパス附属図書館増築に伴う発掘調査。
1983年 （昭和58年）	教務補佐員1名新たに配置。小串（医学部）・常盤（工学部）・白石（教育学 部附属山口幼稚園・小・中学校）・光（同附属光小・中学校）をはじめ、大学 諸施設敷地でも埋蔵文化財の調査を開始し、新たな遺跡が発見される。 吉田キャンパス大学会館新営に伴う発掘調査。
1987年 （昭和62年）	吉田キャンパスメディア基盤センター棟（旧教養部複合棟）新営に伴う発掘調査。
1988年 （昭和63年）	小串キャンパス医学部附属病院棟新営に伴う発掘調査。
1992年 （平成4年）	吉田キャンパス農学部連合獣医学科棟新営に伴う発掘調査。
1993年 （平成5年）	光キャンパス教育学部附属光中学校武道館新営に伴う発掘調査。 遺跡保存地区が本格的な遺跡公園として整備される。
1994年 （平成6年）	助手1名新たに配置。 吉田キャンパスグラウンド野外照明施設新営に伴う発掘調査。 吉田キャンパス第2屋内運動場新営に伴う発掘調査。
1995年 （平成7年）	吉田キャンパス公共下水道布設に伴う発掘調査。
1996年 （平成8年）	常盤キャンパス国際交流会館新営に伴う発掘調査。
1998年 （平成10年）	小串キャンパス宇部市土地区画整備事業に伴う発掘調査



遺跡保存公園 (1967年)



第I地区A区 (1966年)



遺跡保存公園の暫定的整備 (1976年)



本部2号館 (1979年)



医学部体育館 (1983年)



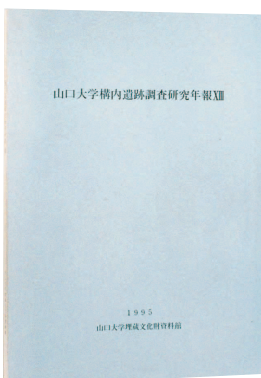
大学会館 (1983年)



遺跡保存公園 (1984年)



附属山口小学校運動場 (1983年)



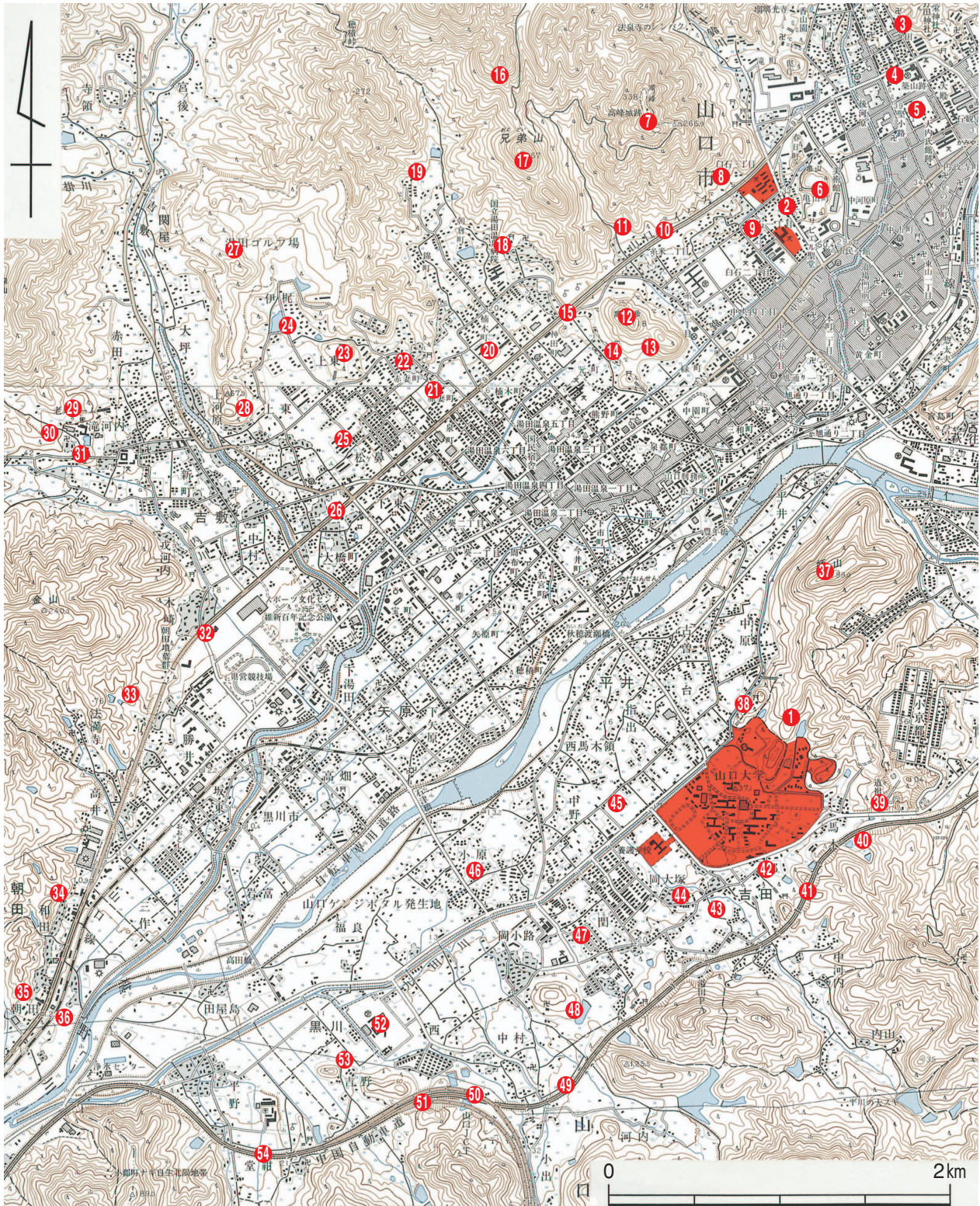
農学部連合獣医学科棟 (1992年)



第2屋内運動場 (1994年)



公共下水道 (1995年)



山口盆地内遺跡分布図
 (国土地理院発行1:25,000 小郡、山口から複製して作成)

- | | | | |
|--|--|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 吉田遺跡 (吉田キャンパス) 旧石器～近世 白石遺跡 (附属小・中学校) 縄文～中世 八幡堂跡 近世 築山跡 室町～近世 大内氏館跡 室町～近世 亀山遺跡 弥生 鴻ノ峰城跡 室町 鴻ノ峰古墳群 古墳 茶臼山石棺群 弥生 糸米遺跡 弥生～古墳 木戸神社古墳群 古墳 障子ヶ岳城跡 中世 | <ul style="list-style-type: none"> 障子ヶ岳南遺跡 弥生 権現山古墳 古墳 萩峠遺跡 弥生 観音堂跡 平安 兄弟山城跡 中世 朝倉大蔵跡 弥生 朝倉河内古墳群 古墳 湯田桶町遺跡 弥生～古墳 赤妻遺跡 弥生～古墳 赤妻古墳 古墳 土師宮古墳群 古墳 伊梶遺跡 弥生～中世 上東遺跡 弥生～中世 下東遺跡 弥生～中世 | <ul style="list-style-type: none"> 大判石棺群 古墳 高麗塚跡 近世 長尾古墳 奈良 吉敷毛利屋敷跡 近世 天神山古墳 古墳 木崎遺跡 縄文・中世 朝田墳墓群 縄文～古墳 和田遺跡 弥生～古墳 門前遺跡 弥生～古墳 王子の森古墳群 古墳 姫山城跡 室町 日吉古墳群 古墳 吉田大浴遺跡 中世 大浴古墳 古墳 | <ul style="list-style-type: none"> 乗ノ尾遺跡 弥生 平清水石棺 弥生 神郷大塚遺跡 弥生～中世 上両家遺跡・大塚古墳 弥生～中世 沖遺跡 中世 小原遺跡 古墳～中世 小路遺跡 縄文～中世 広沢寺古墳 古墳 小出遺跡 古墳 黒川遺跡 弥生～中世 西小路遺跡 古墳～中世 西遺跡 縄文～中世 堂山古墳群 古墳 堂道遺跡 旧石器～中世 |
|--|--|--|--|



朝田墳墓群（山口市教育委員会提供）



大内氏館跡（山口市教育委員会提供）



日吉古墳群の横穴墓（山口市教育委員会提供）



平清水石棺

吉田遺跡

位置と環境

山口盆地は中央に樫野川に沿って形成された沖積平野と周囲の山地部分で構成されています。南北約12km、東西約4kmの規模を持ち、山口県下では最も大きな盆地です。盆地の中央部は頻繁に水があふれていたため、周縁部に沿って多くの遺跡が存在し、旧石器時代から近世まで約80ヶ所にのぼる遺跡が知られています。大別すれば、33の朝田墳墓群や5の大内氏館跡などの樫野川西岸域の遺跡群と吉田遺跡のある樫野川東岸域の遺跡群とに分けることができます。

吉田遺跡は山口盆地の南東縁に位置し、約72万㎡におよぶ吉田キャンパスにある遺跡群の総

称で、樫野川東岸の沖積平野と、姫山、今山から派生した丘陵上にまたがって立地しています。大学本部から家畜病院にかけてのキャンパス東部は低丘陵上、西部は沖積平野に立地します。西部は、遺跡保存公園などで低段丘がみつかり、数ヶ所で谷が入り組んでいたようです。

吉田遺跡の周囲には38の日吉古墳群、41の乗ノ尾遺跡、42の平清水石棺など、吉田遺跡の集落の人々によって営まれたと考えられる墳墓群が点在しています。吉田遺跡は、弥生時代から中世を中心にさかえ、旧石器時代から近世まで存続する樫野川東岸の中核的な遺跡といえるでしょう。



①公共下水道布設地 弥生時代前期中葉の溝、土壌



②第2屋内運動場 縄文～古墳時代の大溝



⑫教育学部附属養護学校 縄文時代晩期の土壌



⑪教育学部構内H-19区 弥生時代後期の竪穴住居跡



⑩遺跡保存公園 焼けた竪穴住居跡



⑨遺跡保存公園 溝で囲まれた竪穴住居跡



⑧農学部連合

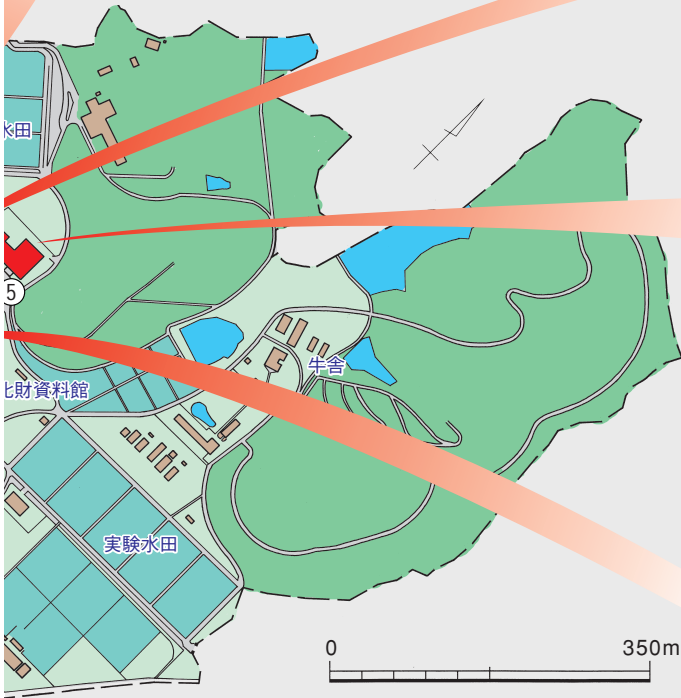
吉田キャンパスの



③メディア基盤センター棟(旧教養部複合棟)敷地
縄文時代の河川跡、落とし穴、近世の
埋甕などがみつかると



④本部2号館 室町時代～江戸時代の屋敷跡



⑤大学会館 古墳時代の井戸、古代～中世の
土器が大量にみつかると



⑦図書館 古墳時代～中世の溝・杭列



⑥大学会館前庭部
弥生時代の貯蔵穴、竪穴住居跡などがみつかると

⑧学科棟 縄文時代の河川跡

埋蔵文化財分布図



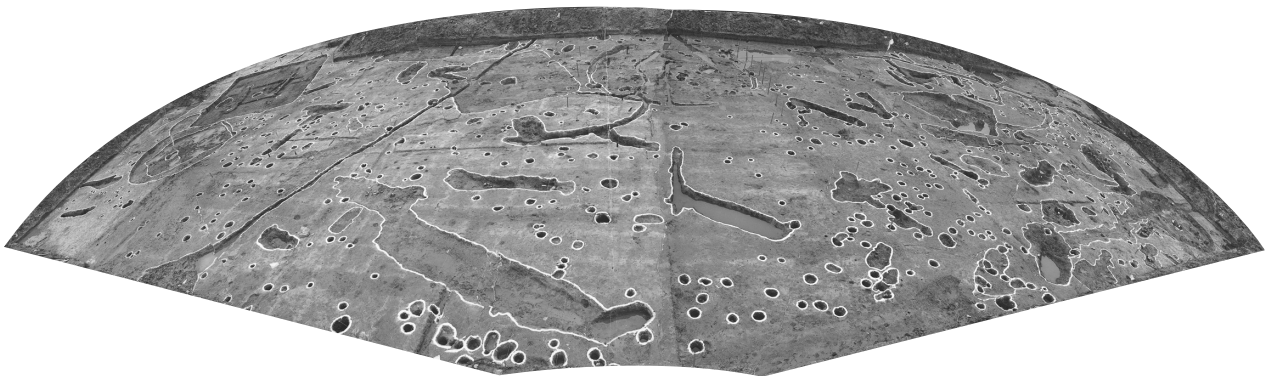
昭和42年頃の山口大学

調査開始の経緯

吉田の地に遺跡があることは、大学の統合移転が始まる以前から知られていました。当時、水田や畑として利用されていたこの場所で、土器や石器などを拾うことができたからです。そしていよいよ1966年（昭和41）から開始された大学の統合移転のためのキャンパスの造成工事や建物建設で、土中から多数の土器や石器が見つかったことが契機となり、この年に、当時の教育学部教授小野忠熙氏によって考古学的な調査がはじめておこなわれました。翌年には、学長を団長とした山口大学吉田遺跡調査団が組織され、本格的な発掘調査が開始されたのです。

吉田遺跡調査団の調査成果

吉田遺跡調査団は、1967年（昭和42）から統合移転の終了する1973年（昭和48）までの6年間にわたって発掘調査をおこないました。この間に、大学建物の建設予定地の大部分を発掘調査することになります。その結果、吉田遺跡が、縄文時代晩期から弥生・古墳時代はもちろんのこと、古代から近世までの複数の時代にわたる集落の遺跡であることが明らかになりました。なかでも、第1学生食堂の南西側では弥生時代後期から古墳時代にかけての多数の住居跡や遺物が見つかり、吉田の地に一大集落が営まれていたことが判明したのです。現在ここは遺跡保存公園として整備されています。



遺跡保存公園の遺構



調査風景



グラウンドから建設中の校舎を望む



グラウンド南部の河川跡



遺跡保存公園の土器出土状況と調査風景

埋蔵文化財資料館の設置と調査成果

1978年（昭和53）には埋蔵文化財資料館が設置され、以後吉田遺跡をはじめとする山口大学キャンパスの遺跡の調査研究を引き続きおこなっています。

吉田遺跡では、当館の発掘調査により、後期旧石器時代、縄文時代前期・中期・後期の遺物が発見され、これまでわかっていたよりもさらに古い時代の埋蔵文化財が明らかになりました。また、陸上競技場で弥生時代前期の集落の一部もみつきり、弥生時代を通じた集落の変遷がわかってきました。

古代から中世にかけても大きな成果がありました。大学会館敷地では、古代の木簡や硯、石帯、鎌倉時代の輸入陶磁器など官衙的施設の存在をうかがわせる遺物がみつきりしました。ほかにも、本部2号館敷地では、室町時代の石組井戸や中～近世の屋敷跡がみつきりしました。古代以降の吉田遺跡の復元も可能になりつつあるのです。



ナイフ形石器など

(左端 遺跡保存公園 右2点 連合獣医学科棟敷地)

吉田遺跡の変遷

旧石器時代

吉田遺跡の歴史は今から数万年前の後期旧石器時代にさかのぼります。これまでに、遺構は確認されていませんが、遺跡保存公園では竪穴住居跡の埋土中からナイフ形石器が、農学部連合獣医学科棟敷地では縄文時代の河川跡からナイフ形石器・尖頭器・剥片がみつかりました。いずれも周辺の丘陵から流れ込んだもので、キャンパス近辺に旧石器時代の集落が存在したと考えられます。

縄文時代

縄文時代前期、中期にさかのぼる遺物は農学部連合獣医学科棟敷地でわずかにみつかるに過ぎませんが、後・晩期になると人の住んでいた痕跡が徐々に増えてきます。後期のもの



縄文時代後期の土器の出土状況（公共下水道布設地）

では陸上競技場の公共下水道布設地で河川跡がみつかっています。晩期のものでは農学部連合獣医学科棟敷地とサッカー場で河川跡、教育学部附属養護学校敷地では土壌がみつかりません。メディア基盤センター棟敷地では幅30m以上の河川跡とそのほとりに小動物を捕獲するための落とし穴がみつかりました。この落とし穴は長さが約1m、幅が約80cmで、穴の底には直径約25cm、深さが30cm以上の穴が掘られ、先の尖った木の棒が立てられたと考えられます。

このほかにも大学会館前庭部、遺跡保存公園周辺で晩期の遺物がみつかりました。これらの状況から、大学会館前庭部から第2学生食堂にかけての丘陵上と教育学部附属養護学校周辺に晩期の集落が存在した可能性が高いと考えられます。



縄文時代晩期の河川跡（連合獣医学科棟敷地）



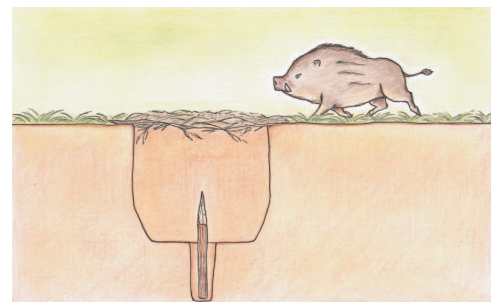
落とし穴（メディア基盤センター棟敷地）



石匙



石鏃



落とし穴想像図



弥生時代前期中葉の溝



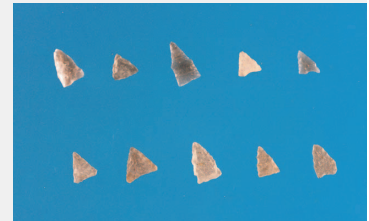
溝内土器出土状況



弥生時代前期中葉の壺



壺復元図



石鏃

公共下水道布設地の発掘調査から

弥生時代前期

弥生時代になると集落の存在が確認でき、その規模は徐々に拡大します。陸上競技場の公共下水道布設地は2本の自然河川に囲まれた微高地で、前期中葉の溝、土壙、柱穴が多数見つかりました。溝には狐を描くものがあることから、竪穴住居跡の側溝の可能性が考えられます。また、土壙の埋土は炭や灰を含むものが多く、水洗選別の結果、食料とされた様々な魚類の骨片がみつっています。このことからここは当時の居住域と考えられます。おそらく、2本の自然河川を天然の環濠とした集落が、微高地上に形成されていたのでしょう。

みつかった前期中葉の土器は山口県東部の土器編年の空白を埋める資料として貴重なもので

す。ほかにも石鏃や凹石、骨角器などがみつっています。

前期末のものでは野球場の東南縁で竪穴住居跡が1棟みついているほか、溝か土壙と考えられる落ち込みから、前期末から中期初頭の土器が大量にみつっており、学外南側に集落が広がるようです。ほかには、遺跡保存公園で完形に復元できる前期末から中期初頭の甕がみつっています。また、大学会館前庭部では貯蔵穴が2基みつっています。

これらの状況から、弥生時代前期中葉までに陸上競技場付近の微高地上と大学会館前庭部から第2学生食堂にかけての丘陵上に集落が形成され、前期末には野球場から遺跡保存公園にかけても集落が拡大すると考えられます。



弥生時代前期末～中期初頭の土器（野球場）



貯蔵穴（大学会館前庭部）



土器の検出風景



土器の出土状況

吉田遺跡の顔

バラバラの小片となって出土した土器でしたが、もと埋蔵文化財資料館助手の豆谷和之氏の手による、精緻な接合復元作業により、一群の弥生土器としてよみがえりました。これらの土器は、吉田遺跡の発掘調査の契機となった記念すべき土器であるとともに、近年では山口大学要覧の表紙にも使われました。学術的な意義と併せて、まさに吉田遺跡の顔と言うにふさわしい土器です。

弥生時代中期

弥生時代中期には遺跡保存公園から教育学部校舎にかけての区域と大学会館前庭部に集落が営まれます。遺跡保存公園では中期前半から中頃の竪穴住居跡が3棟、後半が7棟、中期が4棟みつかっており、このほか土壇も多数みつっています。中期後半の住居跡には、まわりを溝で弧状に囲まれたものがみつっています。溝と住居の間には土壇が設けられており、溝で囲まれた範囲が住居1棟あたりの占有区域を示すものとして注目されます。また、ラグビー場では幅約5.5m、深さ1.1mの大溝がみつかり、その規模から中期後半の集落を囲む環濠の可能性が高いと考えられます。

一方、大学会館前庭部南のキャンパス循環道では不整形の土壇から中期後半の土器がまとまってみつっています。この土壇からは垂下口縁壺と呼ばれる在地の土器と、北部九州の須玖式系の土器が相伴してみつき、土器研究上貴

重な資料となっています。

このほかに中期か後期か断定はできませんが、図書館敷地からは祭祀に使われたと考えられる分銅形土製品が1点みつかり、石庖丁、石鎌などの石器類もキャンパス各所で出土しています。



分銅形土製品
(図書館敷地)



石庖丁(上)と石鎌(下)
(本部2号館敷地)



弥生時代後期後半の土壌と出土土器（本部2号館敷地）

弥生時代後期～終末

弥生時代後期も中期と同じ場所に集落が立地します。遺跡保存公園では後期前半の竪穴住居跡が1棟、土壙が6基あり、後半から終末にかけては竪穴住居跡が5棟、土壙7基がみつかります。遺跡保存公園では火災にあって焼け落ちた弥生時代終末の住居跡がみついています。この住居跡では、崩落した桁や垂木などの建築部材が当時の木組みのままに残っており、注目されました。また、サッカー場の照明塔の基礎部分でみつかった2棟の住居跡から、合計37個におよぶガラス小玉がみつかりました。住居跡1棟あたりでみつかった数としては県内最多で、住居の廃棄にさいして散布したと考えられます。

遺跡保存公園の西側では弥生時代終末から古墳時代前期にかけての河川跡がみつかりました。



弥生時代後期後半の土壌と出土土器（大学会館前庭部）

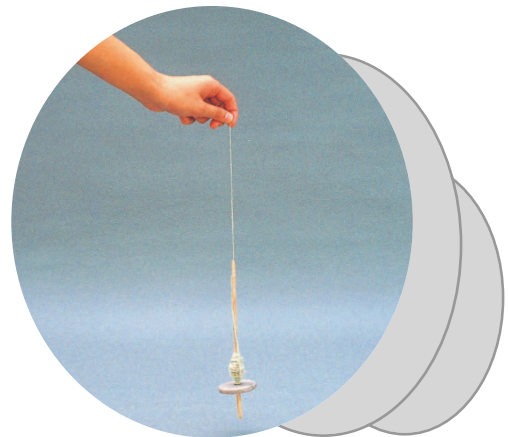


竪穴住居跡（大学会館前庭部）

近年の調査では護岸設備、もしくは堰と考えられる杭列がみつかり、当時の水利施設を知る貴重な発見となりました。

一方、大学会館前庭部では後期後半から終末の竪穴住居跡が1棟、土壙2基がみつかっています。このうち、本部2号館敷地の土壙では後期後半の土器がまとまってみつかり、土器編年上、貴重な資料となっています。隣の本部1号館敷地でも、溝状遺構から後期後半の土器がまとまってみついていることからこの区域でも中期に引き続き集落が営まれていたことがうかがえます。他地域の土器には、複合口縁を持つ山陰系の甕があります。山陰系の甕は後期後半以降に急増し、当時の活発な地域間交流をかいまみることができます。

また、弥生時代中期後半から後期後半にかけては、糸を紡ぐのに使用する紡錘車に角閃石安山岩という山口県でも東部のみに分布する石材が使用され、キャンパス各所でみつかりました。



糸を紡ぐ

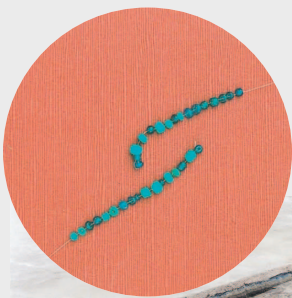
角閃石安山岩製紡錘車（サッカー場）



① 弥生時代中期後半の大溝（環濠？）



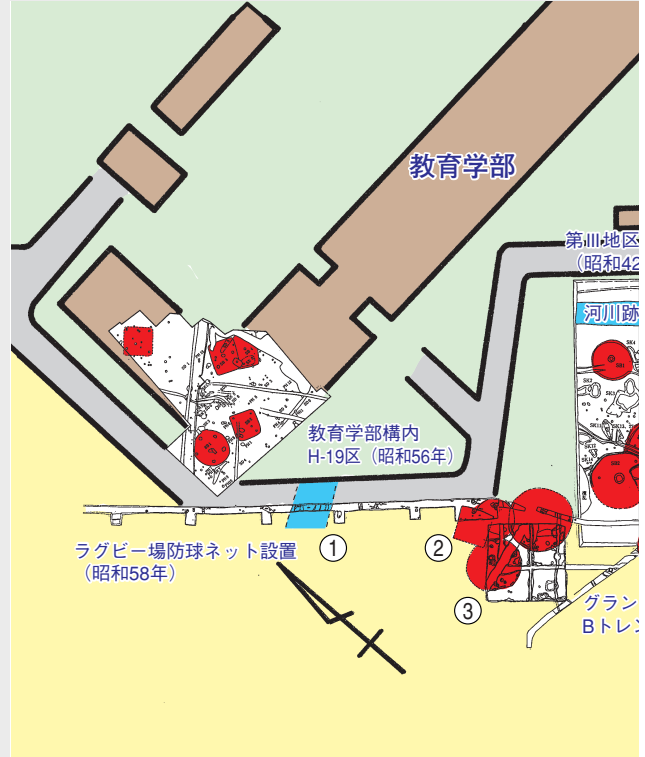
② 古墳時代前期の住居跡



住居跡出土の
ガラス小玉



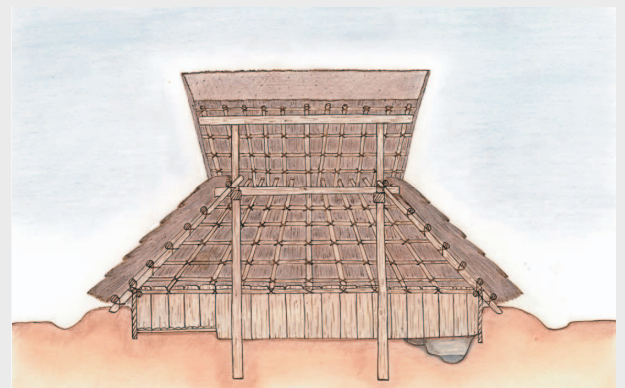
③ 弥生時代後期の竪穴住居跡



遺跡保存公園と



④ 火災にあった竪穴住居跡（第13号）



竪穴住居跡復原模式図（宮本長二郎氏原図）

遺跡保存公園と



調査区位置図



⑦溝で囲まれた竪穴住居跡



⑧河川跡



⑨杭列検出状況



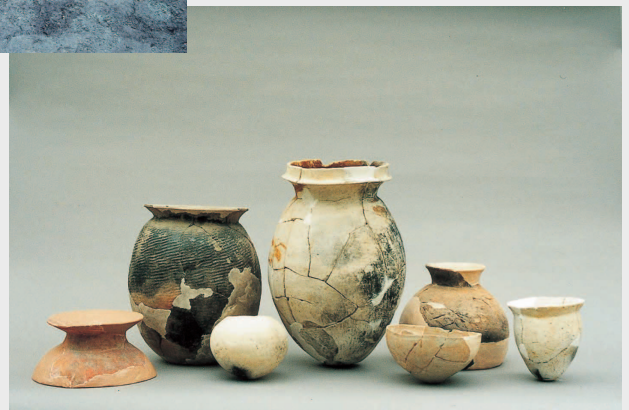
⑤竪穴住居跡 (第9号)



⑩河川跡の土器
出土状況



⑥竪穴住居跡 (第19号)



河川跡出土の弥生時代終末~古墳時代初頭の土器

辺の埋蔵文化財



古墳時代中期の竪穴住居跡（第2学生食堂敷地）



カマドをもつ竪穴住居跡（第2学生食堂敷地）

古墳時代

古墳時代になると遺跡保存公園の集落は縮小します。中期を過ぎると完全に放棄され、中心は大学会館前庭部に移動します。

前期には明確な遺構は確認されていませんが、図書館北側のキャンパス循環道からはこの時期の土器が大量にみつかり、何らかの遺構が存在したことをうかがわせます。中期になると、第2学生食堂敷地で竪穴住居跡が6棟みつかりました。また、北に隣接する大学会館敷地では井戸がみつかり、土地利用のありかたを知ることができます。

後期の遺構は確認されていませんが、本部2号館敷地からは須恵器や集落内の祭祀に用いられたミニチュア土器、土製品や滑石製模造品がみつかりました。

なお、加工痕のある滑石の原石が大学会館前

庭部でみつかり、ことから集落内で滑石製模造品の製作もおこなっていたようです。

大学会館前庭部から東へ離れた牛舎敷地では住居跡が2棟みつかり、数が少ないことからこの付近には未発見の住居跡が埋もれているのでしょうか。キャンパス北側に隣接する日吉神社ではこの時期の横穴墓が7基あり、牛舎敷地の集落の人々によって営まれた可能性が高いと考えられます。

また、家畜病院から樫野寮に至る飼料園では、6世紀前半頃の円筒埴輪の破片が採集されています。1967年頃には古墳の内部主体の一部と考えられる石材の露出があったと言われています。山口県内で埴輪を持つ古墳は少なく、ここに埋もれている古墳はこの地域を治めていた首長の墓といえるでしょう。



竪穴住居跡（第2学生食堂敷地）



調査風景（第2学生食堂敷地）



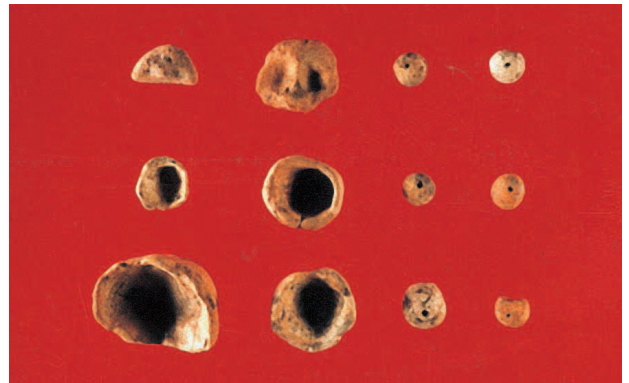
古墳時代中期の井戸（大学会館敷地）



古墳時代中期の土器（大学会館敷地）



滑石原石と剥片（大学会館前庭部）



ミニチュア土器と各種土製品（本部2号館敷地）



滑石製模造品（本部2号館敷地）



飼料園（第II地区）の現況



古墳時代後期の竪穴住居跡（牛舎敷地（第IV地区））



円筒埴輪片（飼料園採集）



溝 (第2学生食堂敷地)



柱穴群 (飼料園 (第II地区))

古代

第2学生食堂の敷地では9世紀前半から10世紀前半の南北方向の溝がみつかっています。幅が約2mで、護岸のための杭列や橋脚の柱穴があり、溝の西側の施設を区画していたようです。また、家畜病院の西側と家畜病院付近の市道では河川跡がみつかっています。

大学会館前庭部付近の丘陵上では、8~9世紀の須恵器が大量にみつかっています。須恵器には円面硯や墨書のあるものが含まれます。ほかにも緑釉陶器やベルトの飾りである石製丸鞆、木簡などの一般の集落ではみることの少ない特殊な遺物が含まれており、官衙的施設の存在がうかがえます。農学部の実験水田では墨の付着した円面硯や製塩土器がみつかっており、付近

一帯には8~9世紀の須恵器が散布しています。さらに、家畜病院付近の飼料園では古代から中世にかけての柱穴が多数みつかっています。

古代の遺構は第2学生食堂付近と家畜病院付近の2つの丘陵に広がっていた可能性が高く、その間には中央の低地に向かって河川が流れていたのでしょうか。キャンパス南側に隣接する神郷大塚遺跡では山口市教育委員会の調査で8~9世紀の掘立柱建物、柵列、土壇や、鉄滓、製塩土器、緑釉陶器などがみつかっています。奈良時代から平安時代にかけては神郷大塚遺跡とともに何らかの官衙的施設を構成していたと考えられます。



円面硯 (農学部実験水田)



緑釉陶器 (大学会館敷地)



丸鞆 (大学会館敷地)

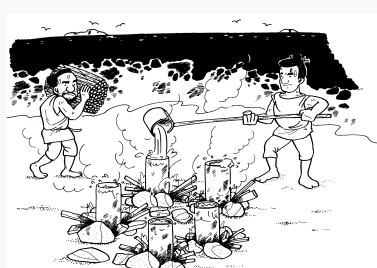
腰帯模式図



「富」が書かれた須恵器 (大学会館敷地)



木簡 (大学会館敷地)



塩造りの様子 (「周防の国府」)



製塩土器片 (農学部実験水田) (左が表、右が裏)



白磁（大学会館敷地）



龍泉窯系青磁（大学会館敷地）

中世

大学会館周辺では、11世紀後半から12世紀前半の平安時代後半から鎌倉時代初頭の、中国からの輸入陶磁器（白磁）が大量にみつかっています。続く12世紀後半から14世紀前半の鎌倉時代には、畿内で作られた瓦器が数点と中国からの輸入陶磁器（青磁）が大量にみつかっており、古代に引き続いて何らかの官衙的施設が存在したようです。

16世紀後半から17世紀後半、室町時代から江戸時代初頭にかけては本部2号館敷地で屋敷跡がみつかっています。ここでは多数の柱穴の他、石組みの井戸と土壇墓がみつかっており、富裕農民層の屋敷跡と考えられます。屋敷を囲む溝からは18世紀の陶磁器類がみつかっており、江戸時代にも引き続き屋敷が設けられていたようです。



屋敷跡（本部2号館敷地）



播り鉢



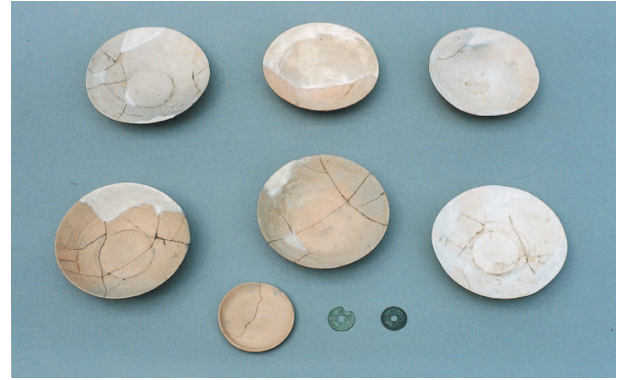
溝内遺物出土状況



火鉢



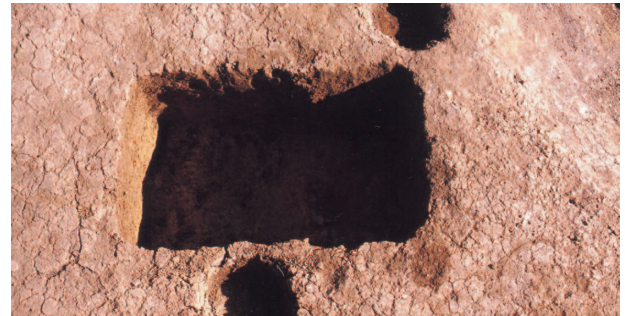
井戸



井戸内出土遺物



調査風景

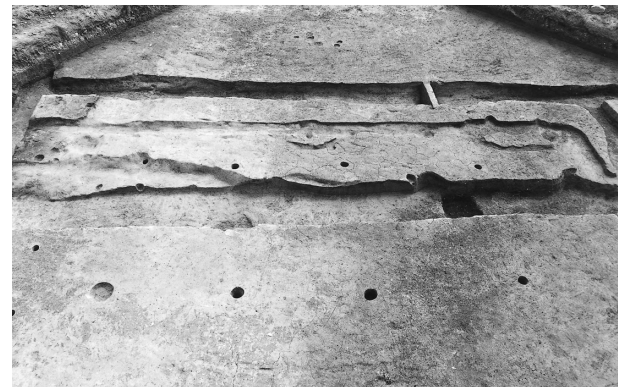


土壙墓

近世

メディア基盤センター棟敷地では17世紀の掘立柱建物や井戸、埋甕遺構がみつかっています。また、第2屋内運動場、本部裏給水管布設地、飼料園、本部2号館では大学移転前まで使用された用水路から、18世紀なかばから19世紀後半の陶磁器類が大量にみつかっています。

ほかにも各調査地で散発的に遺物がみつっていますが、詳細は不明な点が多く、今後の調査が期待されます。



掘立柱建物（メディア基盤センター棟敷地）



井戸（メディア基盤センター棟敷地）



埋甕（メディア基盤センター棟敷地）



萩焼浅鉢・碗（本部2号館、第2屋内運動場敷地）



遺跡保存公園の現況



平面復元された竪穴住居跡
(遺跡保存公園第13号竪穴住居跡)

床を黄土色、ベッド状遺構を灰色、柱穴と溝を茶色、炉を赤色のタイルで表示しています。

遺跡保存地区

吉田遺跡には遺跡の保存されている地区が2つあります。第1学生食堂南西側、サッカー場と第1学生食堂の間にある遺跡保存公園と大学会館前庭部です。

遺跡保存公園では、1967年（昭和42）におこなわれた吉田遺跡調査団の発掘調査によって、弥生時代中期から古墳時代前期にわたる多数の竪穴住居跡がみつかりました。しかし調査団は、統合移転工事によって遺跡が消滅する地区の発掘調査に忙殺され、調査は遺構の分布の確認にとどまりました。そのまま1976年（昭和51）に、後世に貴重な歴史資料を残すことを意図して、史跡庭園として暫定的な整備がおこなわれました。

その後、当館による保存地区周辺部の調査の結果、保存地区との関連が重要視されるようになりました。そこで当館では1982年（昭和57）と1984～86年（昭和59～61）に4回の発掘調査を実施しました。その結果、弥生時代中期から古墳時代前期にかけての竪穴住居跡が21棟みつかり、詳細が明らかになりました。

大学会館前庭部は、1982年（昭和57）に大学会館新営に伴う発掘調査の結果、弥生時代後期の竪穴住居跡などが良好な状態でみつかり、協議の結果、大学会館は前庭部から北寄りの現在の位置に建つことになりました。その後、1985年（昭和60）に環境整備のための試掘調査がおこなわれました。

遺跡保存地区の環境整備は1994年（平成6）2月に完了しました。整備にあたっては、埋蔵文化財に影響のおよばないように植樹がおこなわれ、掘削工事を伴うところは工法を変更し、深さを浅くとどめるなど細心の注意が払われました。このため、地下の埋蔵文化財は大切に守られています。遺跡保存公園では5棟の竪穴住居跡をカラータイルで地表に示し、河川跡には白い石を敷き、各々には文章と写真による説明板を設置しています。遺跡保存公園はこのような野外博物館としての機能をもつ一方、遊歩道や足元灯、ベンチが設置された憩いの場として有効に活用されています。



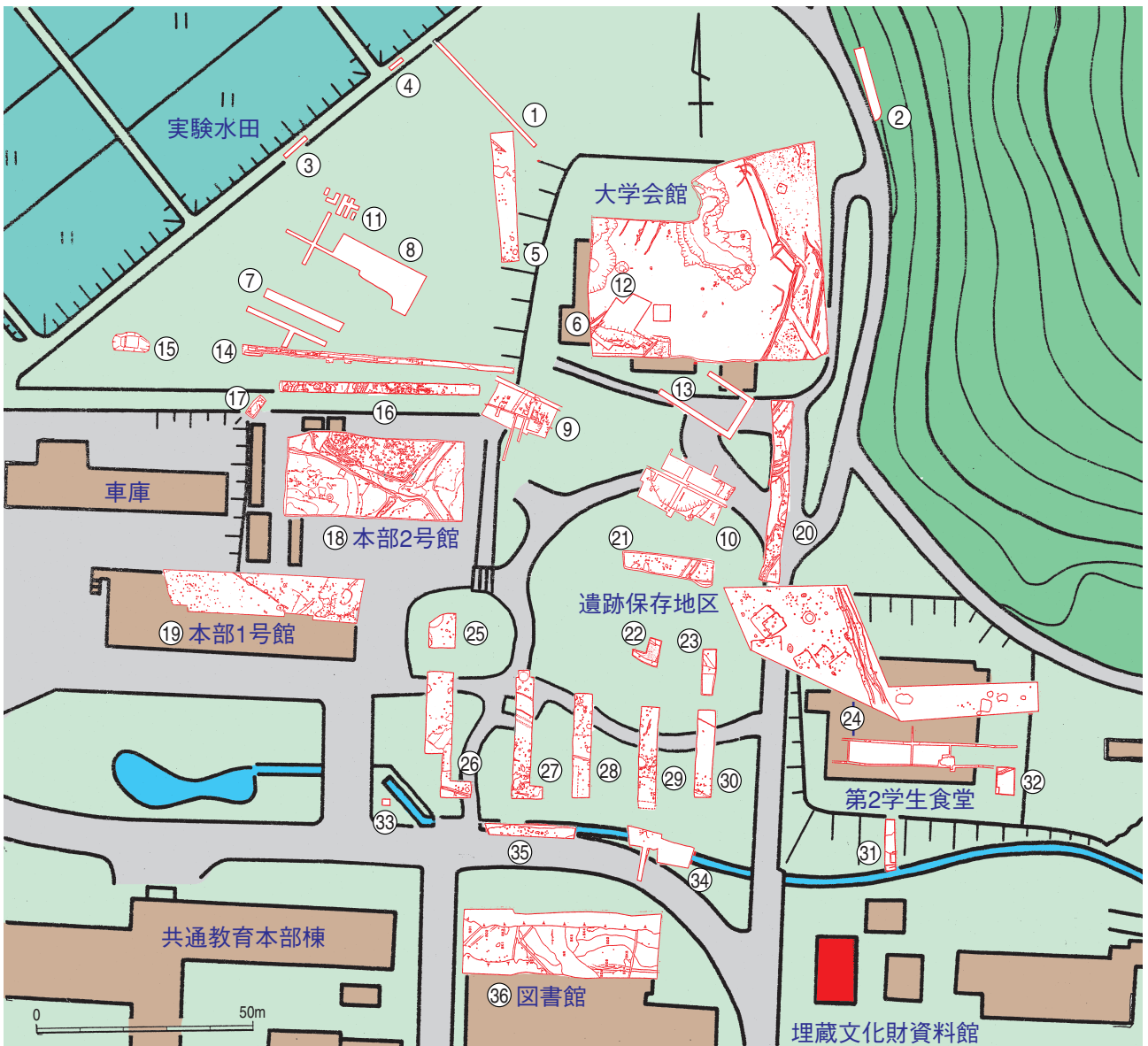
説明板



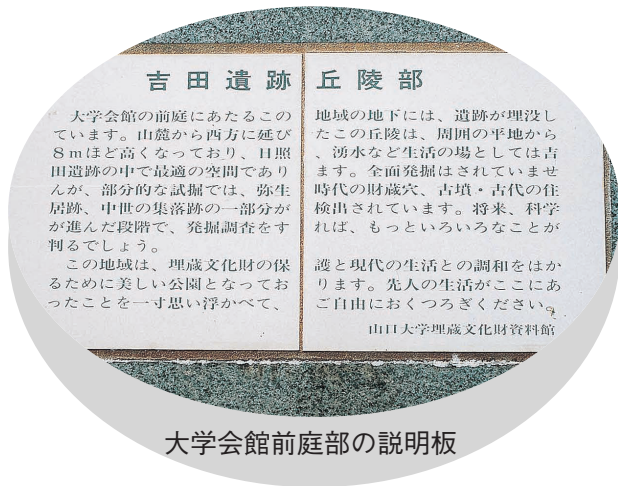
遺跡保存公園



大学会館前庭部の現況



大学会館前庭部付近の主な発掘調査地



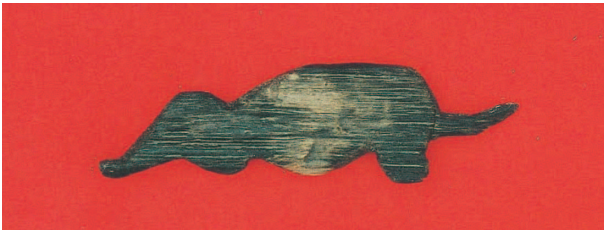
大学会館前庭部は姫山から西にのびた小高い丘陵で見晴らしや陽当たりも良く、昔から生活に最適の場であったのでしょうか。これまでの発掘調査で、濃密な生活の痕跡がみついています。一帯は、縄文時代から近世におよぶ埋蔵文化財が密集しており、吉田遺跡のなかでも中心的な地域であることが判明しています。また、現在も本部や大学会館など大学の中核となる建物が立ち並んでいます。

大学会館前庭部付近の主な発掘調査

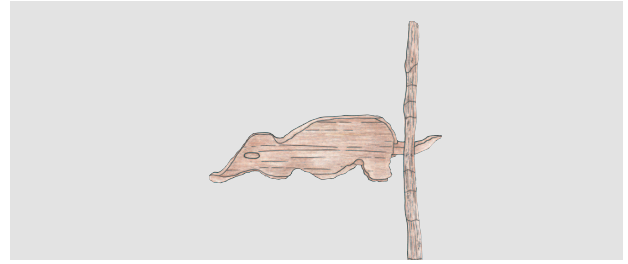
番号	調査年	調査区分	調査名	主要遺構・遺物	調査者
1	1987年	立会	附属農場排水管理設	弥生土器・須恵器・白磁等	河村吉行
2	1987年	立会	圃場進入路拡幅	中世土壇墓か？	河村吉行
3	1996年	立会	農道舗装工事5トレンチ	近世大溝	村田裕一・田畑直彦
4	1996年	立会	農道舗装工事7トレンチ	弥生中期～古墳時代前期溝	村田裕一・田畑直彦
5	1983年	試掘	大学会館新営	柱穴・土壇	河村吉行・森田孝一
6	1983年	事前	大学会館新営	柱穴・土壇 青磁・白磁・緑釉陶器 木簡・弥生土器・土師器	河村吉行・森田孝一
7	1971年	試掘	第1地区D区第1地点	近世大溝 弥生土器	山口大学吉田遺跡調査団
8	1971年	試掘	第1地区D区第2地点	弥生土器・瓦質土器・石鍋	山口大学吉田遺跡調査団
9	1971年	試掘	第1地区D区第3地点	土壇・柱穴 弥生土器・瓦質土器	山口大学吉田遺跡調査団
10	1971年	試掘	第1地区D区第4地点	土壇・柱穴 弥生土器・瓦質土器	山口大学吉田遺跡調査団
11	1971年	試掘	第1地区D区第5地点	弥生溝 弥生土器・土師器	山口大学吉田遺跡調査団
12	1971年	試掘	第1地区D区第6地点	柱穴 弥生土器・土師器・石器	山口大学吉田遺跡調査団
13	1971年	試掘	第1地区D区第7地点	須恵器	山口大学吉田遺跡調査団
14・15	1993年	事前	本部裏給水管理設	近世大溝・柱穴 弥生土器 土師器・滑石製模造品	豆谷和之
16・17	1984年	事前	大学会館排水管理設	古墳～古代土壇・柱穴 弥生土器・土師器・青磁・白磁	河村吉行
18	1979年	事前	本部2号館新営	溝・土壇・柱穴・中世井戸・土壇墓 住居跡 弥生土器・滑石製模造品	河村吉行
19	1967年	事前	第1地区C区 本部1号館新営	竪穴住居・溝・土壇 土師器 須恵器・瓦質土器・近世陶器	山口大学吉田遺跡調査団
20	1984年	事前	大学会館ケーブル布設	弥生土壇・柱穴 弥生土器	河村吉行・森田孝一
21～23	1982年	試掘	大学会館新営	弥生竪穴住居・溝 弥生土器	河村吉行
24	1971年	試掘・事前	第1地区E区 第2学生食堂新営	古墳竪穴住居・土壇・溝・柱穴 弥生土器・土師器・石器・鉄製品	山口大学吉田遺跡調査団
25	1985年	試掘	大学会館環境整備Aトレンチ	土壇 弥生土器	河村吉行・森田孝一
26	1985年	試掘	大学会館環境整備Bトレンチ	竪穴住居 弥生土器	河村吉行・森田孝一
27	1985年	試掘	大学会館環境整備Cトレンチ	貯蔵穴 弥生土器	河村吉行・森田孝一
28	1985年	試掘	大学会館環境整備Dトレンチ	近世土壇 近世大甕	河村吉行・森田孝一
29	1985年	試掘	大学会館環境整備Eトレンチ	柱穴	河村吉行・森田孝一
30	1985年	試掘	大学会館環境整備Fトレンチ	柱穴 弥生土器・土師器	河村吉行・森田孝一
31・32	1995年	試掘	第2学生食堂増築	柱穴	村田裕一
33	1989年	事前	水銀灯新営	古墳溝・柱穴 弥生土器・土師器	河村吉行
34	1966年	事前	第1地区A区	土壇 弥生土器・土師器・須恵器	小野忠熈
35	1966年	事前	第1地区B区	柱穴 弥生土器・土師器・須恵器	小野忠熈
36	1982年	事前	附属図書館増築	弥生～古墳溝・土壇・柱穴・杭 弥生土器・土師器・石器・須恵器	河村吉行



鳥形木製品出土状況（附属小学校）



鳥形木製品



鳥形木製品模式図



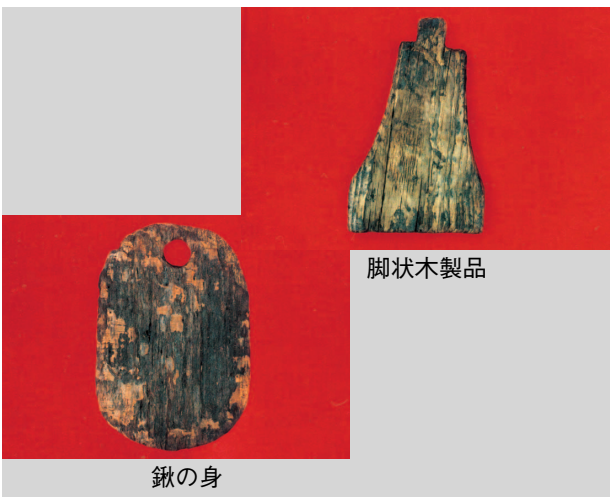
木製品取り上げ風景

白石遺跡

教育学部附属山口幼稚園・小・中学校がある白石キャンパスは、山口盆地の北西にそびえる鴻ノ峰の麓にあり、白石遺跡として知られています。1983年（昭和58）、附属小学校の運動場整備に伴い、発掘調査がおこなわれました。その結果、運動場北西隅の小河川か溝と推測される弥生時代終末～古墳時代初頭の溝状遺構から多量の土器と木器がみつかりました。木器には鋤の上部と把手部分、鍬の身の部分、木製品の脚、板状製品の一部、鳥形木製品などがあります。

鳥形木製品は尾の部分に棹が取り付けられた状態でみつかったきわめて珍しいもので、祭祀や農耕儀礼に用いられたと考えられます。

また、運動場南端中央からは古墳時代中期の竪穴住居跡1棟がみつかりました。住居跡は方形を呈し、カマドが取り付けられており、焚口付近からは甕が2点みつかりました。さらに、1986年（昭和61）の污水管布設に伴う発掘調査では、幼稚園中央部付近や小学校南東部でも遺物を含む包含層を確認しています。



鍬の身

脚状木製品



鋤の柄



古墳時代中期の竪穴住居跡（附属小学校）



古墳時代中期の甕



カマド検出風景



山陰系鼓形器台（附属中学校）

附属中学校では、1986年（昭和61）の污水管
布設に伴う発掘調査で遺跡の所在を確認しまし
た。1990年（平成2）の発掘調査では、附属小
学校寄りの校舎西側で縄文時代晩期の包含層と
弥生時代後期～古墳時代初頭の溝1条がみつか
り、小・中学校の広い範囲に弥生時代終末から
古墳時代中期の集落が存在していたと考えられ
ます。このほかにも中世の瓦器、土師器などが
若干みつかりました。

縄文時代晩期の土器は山口県東部ではみつか
った例の少ない刻目突帯文と呼ばれる晩期後半
の土器です。弥生時代終末～古墳時代初頭の土

器には、在地の土器の他、外面のタタキ目を特
徴とする畿内系の土器、複合口縁を特徴とする
山陰系の土器があり、当時の幅広い交流を探る
上で貴重な資料です。

中世の土器には16世紀に大内氏により独自に
生産、消費された大内B式土師器があります。
これは、在地産の土器がろくろを使用するのに
対し、京都の土師器を模倣して、手づくねで製
作されたものです。大内B式土師器は附属小学
校でもみつかっており、この一帯に大内氏関連
の施設の存在がうかがえます。



刻目突帯文土器



畿内系の土器



調査風景（附属中学校污水管布設に伴う試掘調査）



月待山・御手洗遺跡周辺の遺跡分布図

- ① 御手洗遺跡
- ② 月待山遺跡
- ③ 新開遺跡
- ④ 西之庄遺跡
- ⑤ 市延遺跡
- ⑥ 東之庄・神田遺跡
- ⑦ 横樋遺跡

月待山・御手洗遺跡

教育学部附属光小・中学校のある光キャンパスは月待山・御手洗遺跡として知られています。遺跡が位置する室積半島は、島田川の土砂の運搬による砂浜が発達しており、もともと島であった我眉山との間に形成された陸繋島です。

前身の山口県女子師範学校であった1932年（昭和7）に、すでにグラウンドの東南隅で弥生時代の石斧が採集されており、1950年（昭和25）には小野忠熙氏によって前面の海岸で土師器が採集されました。その後、1965年（昭和40）の中学校の体育館新営工事の際、縄文時代晩期から中世におよぶ遺物包含層と大量の遺物がみつき、遺跡であることが確認されたのです。

1984年（昭和59）からは当館による調査が開始され、同年2月の小学校自転車置場新設に伴う発掘調査では、19世紀から近代までの石垣と

弥生時代の石斧



中世の柱穴群（附属中学校武道館敷地）



近世～近代の石垣（附属中学校）



萩焼浅鉢



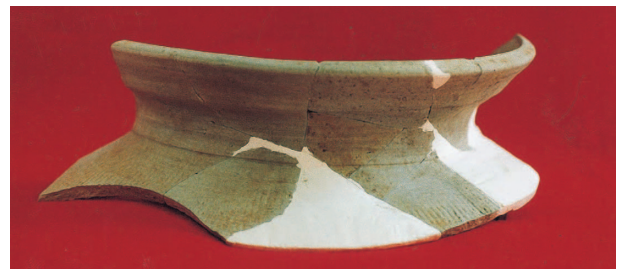
備前焼徳利

土器や瓦が大量にみつかりました。この付近は、江戸時代に毛利藩の役所が設けられて港町としてにぎわっていたという記録があり、港湾施設が整えられていたことがうかがえます。

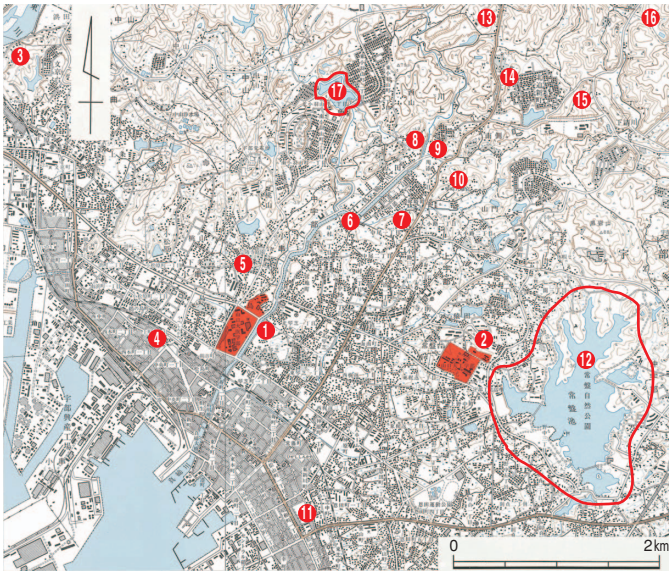
近年の調査では、古墳時代後期と中世の遺構面が確認されており、砂堆上で少なくとも古墳時代後期から近世まで継続的に営まれた集落遺跡であることがわかりました。また、縄文時代前期の曾畑系の土器もみつかることから、将来さらに古い時代の遺構がみつかる可能性があります。



曾畑系土器



須恵器甕



医学部周辺の遺跡分布図

- ①山口大学医学部構内遺跡（旧石器、室町～近世）
- ②山口大学工学部構内遺跡（旧石器、室町～近世）
- ③松崎古墳（古墳）
- ④新町遺跡（古墳）
- ⑤小串古墳群（古墳）
- ⑥川津遺跡（旧石器～中世）
- ⑦福原邸跡（江戸）
- ⑧西山遺跡（弥生）
- ⑨辻遺跡（古墳）
- ⑩琴崎八幡宮馬場遺跡（弥生）
- ⑪見初遺跡（古墳）
- ⑫常盤池遺跡（旧石器～古墳）
- ⑬北迫遺跡（弥生）
- ⑭北迫石鍋製造地跡（中世）
- ⑮下請川南遺跡（中世）
- ⑯釜河遺跡（中世）
- ⑰蛇瀬ヶ池遺跡（旧石器）

山口大学医学部構内遺跡

山口大学医学部構内遺跡は宇部市街地の北辺にあり、真締川の浸食によって形成された低地に立地します。周囲には、旧石器時代～縄文時代の遺物が散布する蛇瀬ヶ池遺跡、弥生時代の北迫遺跡など各時代の遺跡が点在します。

医学部キャンパスは1984年（昭和59）におこなった体育館新営に伴う発掘調査で、旧石器時代と室町時代後半の遺物がみつき、遺跡であることが判明しました。その後の調査で、近世の溝や陶磁器類もみついています。

宇部市街地周辺部には、なだらかな低丘陵が広がっています。この丘陵上は旧石器時代の遺

跡が集中して分布する、山口県内でも有数の地域です。これらの旧石器時代遺跡の特徴のひとつは、石器に非常に多様な石材が使用されていることです。医学部でみつかった石器にも同様な傾向がうかがえます。

1998年（平成10）4月から6月まで宇部市の区画整理事業に伴って、宇部市教育委員会と合同でおこなった発掘調査では、弥生時代終末期～古墳時代初頭の土器が多数みつかりました。調査地の西側には北から伸びる低い段丘があり、遺物はそこから流れ込んだと考えられます。付近ではこの時期の遺跡は知られておらず、今後の調査が期待されます。



旧石器時代の各種石器



弥生時代終末～古墳時代初頭の土器出土状況



調査風景



ナイフ形石器（約2倍）

山口大学工学部構内遺跡

工学部のある常盤をおこなっており須恵器、磁器などがみつかっています。1996年（平成8）におこなった、工学部国際交流会館新営工事に伴う発掘調査では、ひとつの石器が見つかりました。この石器は現代のナイフのように尖った形をしていることからナイフ形石器と呼ばれる石器で、柄を装着して槍のように使用すると考えられる石器です。工学部で見つかったナイフ形石器は水晶製で、先端部が欠損していますが、大きさは、現存長1.8cm、復元最大長約2.5cm、最大幅1.0cmとたいへん小さいものです。素材となる剥片の両側の縁に調整を加えて石器に仕上げる二側縁加工の小型ナイフ形石器で、いくつか組み合わせて使われたと考えられます。みつかった石器は後期旧石器時代（今から約3万～1万年前）後半のものと推定できます。

このナイフ形石器は、大学造成土直下の耕作

土のなかから発見されました。発掘調査では、残念ながらこのナイフ形石器が本来所属していた文化層の所在を明らかにすることはできませんでしたが、他に水晶製の剥片などもみつかり、発掘調査により旧石器の埋存が確認された意義は大きいといえるでしょう。

工学部敷地の東側約300mには、常盤池と呼ばれる人工池があります。この池の周辺は、常盤池遺跡群と称せられる全国的にも有名な旧石器時代遺物の散布地です。常盤池は北部の山地から樹状に張り出してきた低丘陵端部の谷筋を利用した溜池で、旧石器時代の遺跡はこの丘陵の上から斜面にかけて点在したと考えられます。工学部の所在する常盤台も同様の丘陵上に位置しており、ナイフ形石器が見つかったことで、常盤池遺跡群と関連のある旧石器時代遺跡が工学部敷地内のどこかに埋没している可能性が極めて濃厚になったといえます。



常盤池



現地説明会（農学部解剖実習棟）



企画展・公開授業ポスター

現状と課題

山口大学キャンパス遺跡の調査が開始されてすでに40年が経過しました。これまでの調査で各遺跡の全貌が明らかになりつつありますが、特に吉田キャンパスでは弥生時代から古墳時代にかけての集落構造の変遷過程と、古代の官衙関連施設の確認という大きな成果が得られています。しかしながら、小規模な調査が多いため、各時代の遺構群の空間的な広がりなどは、未だ十分に解明されたとはいえません。他のキャンパスを含めて、今後の課題と言えます。

埋蔵文化財資料館では、これらの調査結果とともに山口県内の特色ある埋蔵文化財を学内外に広く公開するため、常設展と年1回の企画展を開催しています。また考古学の楽しさを体験していただく活動として、公開授業を開催しています。この他にも、広報誌の発行やホームページでの情報公開など、さらなる埋蔵文化財情報の発信に努めています。皆さんも、是非私たちのこうした活動にご参加下さい。ともに地域の貴重な歴史・文化を学びましょう！



公開授業



企画展



資料館ホームページ

山口大学キャンパスの歴史年表

絶対年代	時代	主な出来事	吉田	白石	小串	常盤	光
30000	旧石器	ナイフ形石器文化	ナイフ形石器		ナイフ形石器	ナイフ形石器	
		細石器文化、土器の出現			細石刃 細石刃核		管煙系土器
10000	縄文	磨製石器、骨角器、土器の使用					
2000		屈葬、土偶の増加	河川跡	突帯文土器			
1000		水稲耕作の開始	(公共下水道布設地) 落とし穴				
300	弥生	朝鮮半島から青銅器流入 百余国に分かれる	(旧教養部複合棟敷地) 集落が営まれる (公共下水道布設地)				
B.C.		「漢委奴国王」金印 石器の減少、鉄器の普及	集落が営まれる (遺跡保存公園) (大学会館前庭部)				
A.D.	古墳	卑弥呼 魏に遣使 前方後円墳の出現		溝状遺構 鳥形木製品			
300		須恵器の生産開始 群集墳の盛行	集落が営まれる (第2学生食堂敷地)	豎穴住居			
500	飛鳥	仏教の伝来	集落が営まれる (牛舎敷地)				土壇
710	白鳳	古墳の消滅					土師器・須恵器
794	奈良	平城京遷都					
900	平安	平安京遷都	円面硯・製塩土器 (大学会館前庭部)				
1086		院政の開始	溝状遺構 (第2学生食堂敷地)				
1192	鎌倉	鎌倉幕府の成立 文永・弘安の役	多量の輸入陶磁器 (大学会館敷地)				
1392	南北朝	南北朝の統一					土壇・柱穴 瓦器・土師器
1600	室町	応仁の乱	溝に囲まれた 屋敷跡 (本部2号館敷地)	大内B式土師器			
1868	江戸	関ヶ原の戦い 江戸幕府の成立					
1912		享保の改革			小溝・用水路 陶磁器		石垣 陶磁器
1926	明治	大政奉還					
1945	大正						
	昭和		1967 山口大学統合移転	1951 教育学部附属 山口小学校・中学校	1944 山口県立医学専門学校 1949 山口大学医学部	1939 宇部高等工業学校 1949 山口大学工学部	1914 山口県室積師範学校 1951 教育学部附属 光小学校・中学校